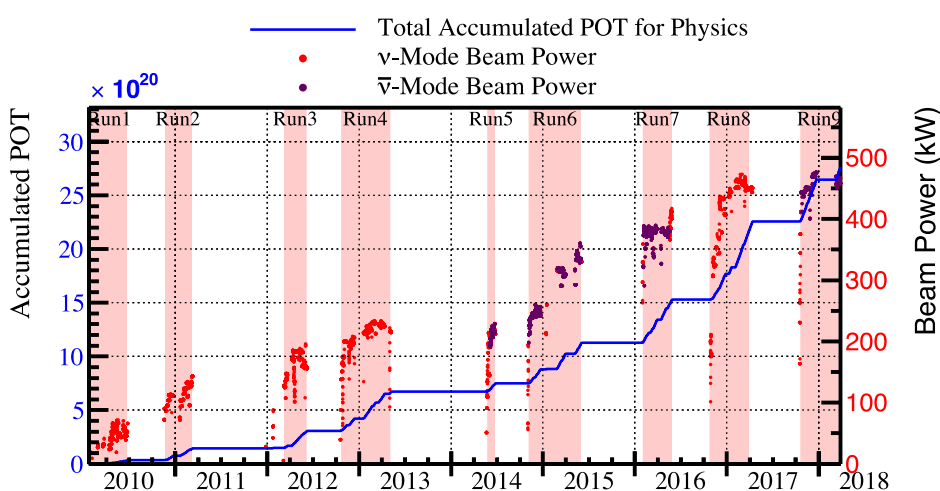


ビーム窓交換をメインとする2017年夏の保守作業終了後、秋のランは10月16日に運転を開始し、12月22日に終了した。夏の保守期間後の立ち上げであったため、当初ビームパワーは伸び悩んだが、最終的には475kWを達成した。この間反ニュートリノモードで運転し、積分POT 3.94×10^{20} のデータを収集した。

年末年始の保守期間後の1月15日から2月26日まではSx運転を行ない、その後3月9日にニュートリノ運転を再開した。再開当初はビームロスが大きかったが、その後のビーム調整で大幅に改善し、480~485kWで安定に反ニュートリノモードでの運転を継続中である。3~5月のランでさらに 5.14×10^{20} POTのデータを蓄積し、反電子ニュートリノ出現事象の測定を目指す。最新の結果は6月のニュートリノ国際会議で報告の予定である。



実験開始から2018年3月末までのビームパワー（赤点/紫点）と積分POT（青線）。
4月7日現在、480kW、反ニュートリノモードで運転している。

2017年秋のランにおいて、前置検出器電磁石チラーとホーン冷却水水素再結合器の故障が発生した。年末年始とSx運転期間中にこれらの修理作業を行なった後に3月の運転を再開したが、再開直後に前置検出器電磁石電源の故障と電磁ホーン冷却水のわずかな漏れが発生した。ホーン冷却水漏れは気密のヘリウム容器内での漏れであり、環境への影響は無い。ともに実験に大きな支障は無く、ビーム運転を継続しながら対処方法と必要となる経費を検討している。オンアクシスINGRID測定器及びスーパーカミオカンデ測定器は極めて順調に稼働している。

MLFで実験を計画しているE56ステライル実験では、MR第一機械棟前で進めていた測定器ステンレスタンクの製作が完了し、PMT設置などの内部組立のために3月14日にHENDEL棟に輸送された。

